

ごあいさつ



芳川豊史教授

みなさん こんにちは。

時の流れは早いもので、2022 年 9 月で、私が名古屋大学呼吸器外科教授に就任させていただいてから、4 年目を迎えることになりました。節目を迎え、気持ちを新たに、しっかり地に足をつけて、チームとしての歩みを進めたいと思っております。

まず、最初に、大変うれしいお知らせがあります。本年も、9 月の時点で、既に 5 名の新入局員を迎えることができました。「人は力なり」という言葉通り、本教室を支える最大の力となっております。この 4 年間で 22 名の新しい仲間を迎え、本教室は、若い力で盛り上がってきております。

臨床面では、総手術数も肺癌の手術数も共に、昨年を上回るペースとなっております。とくに、ロボット手術数は、2022 年は年間 170 例を超える見込みです。また、例年通り、手術の 8 割がいわゆる内視鏡手術ですが、気管手術、気管支形成術、血管形成・置換術など、大学病院ならではの手術も積極的に行っております。拡大手術においては、同門である心臓外科教室との連携を武器に、大血管処置のいる縦隔腫瘍や肺癌の手術においても即座に対応できる体制をとっており、多くの困難症例を経験しております。このように、どのような呼吸器外科症例にも対応できる体制をこれまで通り維持しております。これもひとえに、当院の強みである呼吸器内科、放射線診断科・治療科との連携、関連病院を含む地域医療の先生方からの患者さんご紹介の賜物と理解しております。

また、肺移植の準備も着々と進めております。2022 年 1 月に肺移植関連学会協議会に、肺移植実施施設の申請を行いました。同年 6 月に修正の書類を提出し、現在、審議を続けていただいております。肺移植が患者さんの地元で安定して行えるよう、院内の体制づくりや、肺移植実施施設と連携しての研修を継続して進めております。現在、名古屋大学で肺移植前後のフォローを定期的に行っている患者さんも 15 名を超え、呼吸器内科、循環器内科、小児科などと共に患者さんを外来だけでなく入院でも診させていただいております。

研究面では、大学としての使命として、科学研究費や AMED などの競争的資金に積極的に応募しております。現在、計 6 本の科研費(B、C、若手)を獲得し、忙しい日常臨床の合間を縫って研究を進めております。また、[AMED メディカルアーツの研究では、手術操作や脱気による肺の変形に対応したアルゴリズム](#)を開発し、将来的な手術ナビゲーションを目指し研究を進めております。今後、名大オリジナルの価値ある成果物を世に出せるよう継続して精進していく方針です。

最後になりましたが、本年も、名古屋大学呼吸器外科を中心として、20 を超える関連病院の同門一同が力を合わせて、より良い呼吸器外科医療を確立すべく、日々努力していきたいと存じます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

教育面では、外科医離れが進む流れの中で、呼吸器外科のプレゼンスを示すべく、名古屋大学の

学生教育だけでなく、関連病院と一体となって、研修医および学生の教育や勧誘を進めております。定期的に、ドライラボ、ウェットラボなどの様々なトレーニングを企画するとともに、最新の呼吸器外科・内科に関するセミナーを企画しております

最後になりましたが、本年も、名古屋大学呼吸器外科を中心として、20 を超える関連病院の同門一同が力を合わせて、より良い呼吸器外科医療を確立すべく、日々努力していきたいと存じます。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。